

# 自然遊学館 だより

2001 秋号 (No.22)

2001.10.3

## 貝塚市「市民の森」で採集された珍しい蛾 2種

貝塚市立自然遊学館に勤めていた時は、熱心な市民の助けにより、こんな所にこんな蛾が、というようなものが採れている。次の2種は、その最たるものであろう。標本を提供してくださった貝塚市都市整備公社勤務の祐成恵子さん、台風時の気圧、風向図を提供された関空航空地方気象台の松崎徹氏に対し感謝の意を表します。

### サザナミクチバ

*Polydesma boarmoides* Guenee

市民の森（公園）の西側は海（大阪湾）なので、南からのチョウ・ガの旅行者が羽を休めるのに適した場所なのか、公園のトイレの中にこの見なれぬ蛾が鎮座ましましていた。時は1996年11月14日午後2時頃、祐成恵子さんが、市民の森公園のトイレの中にいたとって、トイレトーパーの軸のボール紙筒に入れた見なれぬ蛾をもって来てくれた。一見して、かつてタイ国でみたことのある東洋熱帯系の本種であることが分ったが、この様な蛾に貝塚でお目にかかれるとは思ってもみなかったことであった。公園のトイレは夜9時まで点灯されているので、この灯火に昨夜飛来したものであろう。それにし

ても、どうして南方に棲むこの蛾が貝塚に飛来したのであろうか。これより4日程前フィリピン東海上で発生した台風があった。これは13日に本州の南の洋上をかすめて北東進し、北方洋上に抜けた台風24号である。いま10日の21時の高空（高度3,000m）の風向を気象図より読み取ると、台風付近で南東、日本上空で西ないし北西であった。おそらく、この風により南西方向より運ばれてきたものと思われる。

標本のデータ：1♂、貝塚市二色3丁目市民の森、14.XI.1996（祐成恵子）。

本種はインドから東南アジア、台湾およびハワイに分布し、日本では偶産蛾として数例報告されているに過ぎない。例えば小笠原諸島父島、奄美大島（6月）、熊本県球磨郡（8月）、長崎県矢岳（7月）、徳島県剣山（8月）、静岡県浜松市（10月）、長野県奈川渡ダム（9月）があり、今回の採集時期は11月14日なので従来記録中最も遅いものである。

本種の食草としては大図鑑によるとネムノキの一種（*Albizia* sp.）およびキンキジュ（*Pithecellobium dulce*）（大図鑑の *Pithecollobium* は誤り）といずれもマメ科植物であるが、筆者はタイ国農業局付属の昆虫博物館でレイシ（ムクロジ科）の葉から飼育された1♂を見ているので、本種の食草としてレイシを記録した（Kuroko &

Lewvanich, 1993)。

## マイコトラガ

### *Maikona jezoensis* Matsumura

本種が市民の森に隣接する自然遊学館の玄関の床面に静止しているのを祐成さんが発見、捕獲し筆者の許にもたらされた。

標本のデータ:1♂, 貝塚市二色3丁目貝塚市立自然遊学館, 9.III.2001 (祐成恵子)。

この蛾の属するトラガ科の多くは腹部が黄色で背面に黒い横縞のあるものが多いので、この様な名前がつけられているのであるが、本種は腹部腹面は黄色であるが、背面は一面黒色で白い長毛が混生している。前翅基部より 2/3 付近の前縁から出る淡黄白色の大きな横斑が特徴的である。

本種の幼虫は白地に黒い縞模様のある特徴的な色彩をしていて、ノブドウの葉を食べる。3年程前に和泉葛城山中腹でノブドウについている本種の幼虫を採集したが、飼育に失敗したことがあった。今回その存在が実証されたことになる。本種は北海道(中、南部)、本州の東北から近畿に亘り、さらに岡山県、四国(徳島県)、対馬と局所的に採集されているが少ない種である。近畿南部では兵庫県(淡路島)(登日,1973)、三重県(尾鷲市)、奈良県(上北山村)(以上柳田,1999)、和歌山県(古座川町、古座町、白浜町、田辺市、広川町、和歌山市など)(的場, 1998)から報告され。大阪府下では越野、宇根崎(1993)による阪南市(1993)、泉佐野市犬鳴温泉(1990)のほかに箕面公園(1994)(山本,1994)の採集例がある。

## 引用分献

枝恵太郎, 1996. 奈川渡ダムでサザナミク  
チバを採集. 誘蛾灯 146: 96.

越野一郎, 宇根崎博信, 1993. 大阪府南部の  
注目すべき蛾類 II. 蛾類通信 174: 422.

Kuroko, H.& Lewvanitch A., 1993.  
Lepidopterous pests of tropical fruit  
trees in Thailand : 31, pl. 27, fig. 2,  
Japan International Cooperative  
Agency

的場 績, 1998. 和歌山県産蛾類既報の整  
理. Kinokuni, Supplement 1 : 119.

村瀬ますみ, 1994. 和歌山県未記録種をふ  
くむ蛾類の採集と飼育 III. 南紀生物  
36(1): 58.

大塚 勲, 吉崎一章, 1985. 九州未記録の蛾  
類 5. 蛾類通信 133: 125-126.

柴原克巳, 1997. 長崎県における蛾の採集  
記録 2(コブガ, ヤガ, トラガ科).

Koganemushi 59: 23.

杉 繁郎, 1982. ヤガ科. 井上 寛ほか,  
日本産蛾類大図鑑 I: 869, 講談社, 東  
京.

登日邦明, 1973. 淡路島産蛾類分布資料 (1).  
蛾類通信 73: 215-224.

柳田慶浩, 1999. 西日本(九州主体)の興味  
ある蛾類. 誘蛾灯 156: 44.

山本義丸, 1994. 大阪箕面公園で得られた注  
目すべき蛾類 (IX). 誘蛾灯 137: 70.

(貝塚市立自然遊学館名誉顧問 黒子 浩)

## 千石荘の鳴く虫の声を聞く会

当館の秋の恒例行事である鳴く虫の声を聞く会が、2001年9月5日の午後6時半から、名越千石荘において行なわれました。大阪市教育委員会の加納康嗣氏を講師に迎えて、約20名の市民の参加がありました。バッタ・コオロギ・キリギリスの形態や鳴き方について簡単な説明があった後、参加者全員で鳴き始めた虫たちの声を聞き、採集も行ないました。以下に、鳴き声を聞いたか採集できた種のリストを示しました(鳴き声を聞くことができた種に☆印を付けました)。

### バッタ目

- アオマツムシ ☆
- マツムシ ☆
- カンタン ☆
- カネタタキ ☆
- クマスズムシ ☆
- エンマコオロギ ☆
- クサヒバリ ☆
- モリオカメコオロギ ☆
- ツツレサセコオロギ ☆
- クマコオロギ ☆
- ハヤシノウマオイ ☆
- セスジツユムシ ☆
- オナガササキリ
- ホシササキリ
- ツチイナゴ
- オンブバッタ
- ショウリョウバッタ

### カマキリ目

- オオカマキリ
- ハラビロカマキリ

去年の行事で鳴き声を聞くことが出来たのは8種だったのですが、今年は12種の鳴き声を聞くことが出来ました。去年は草むらの下の方で鳴いているマツムシの採集に苦労したのですが、今年は行事を始めてすぐに採集することができました。加納さんによると、「クマスズムシを採集できたことが収穫だった」そうです。

(岩崎 拓)

## 秋の自然生態園

9月22日(土) 秋晴にめぐまれる。

作業参加 39名

### <海辺の植物ブロック>

海から陸への植物序列を維持するため、コウボウムギとコウボウシバを残してハマエンドウ・ハマヒルガオを除きました。もっと海に近いなら、潮風や飛砂による影響を受け自然淘汰されるはずが、ここでは人間が手助けします。

9月13日、60リットルの塩水(海水魚飼育水のすてる分)を、部分的に灌水し、海辺の植物以外を除く実験中です。

アオミドロの中から発見されたヤゴの名前を調べ、数を数えてから、池に戻します。ヤンマ類(クロスジギンヤンマ?) 56、シヨウジョウトンボ 34、シオカラトンボ 7、アカネ類 56、イトトンボ類 13でした。

そのほか金魚(2cm以下) 25、アメリカザリガニ(1cm以下) 2もいましたが、今回は誰も、ザリガニを釣ることができませんでした。

夜、大きな食用ガエル?を一匹見つけました。池にはヤゴの敵がいっぱい!

### <バッタの原っぱ>

イボバッタ、ショウリョウバッタ、マダラバッタ、クルマバッタモドキ、エンマコオロギ、カンタン、ツユムシ、ホシササキリが見つかりました。

### <自然生態園全体>

夜は河合正人先生（あやめ池自然博物館）の鳴く虫鑑賞会。ツユムシ、ハラオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、ツヅレサセコオロギ、ヒロバネカンタン、エンマコオロギ、ホシササキリ、シバズ、の声を聞くことができました。

#### ■今後の作業予定

10月13日（土）

14:00～ 自然生態園の掃除など

11月10日（土）

作業内容未定

12月08日（土）

10:00～ 「池干し」と生きもの調査

（白木 江都子）

### トンボの池のザリガニ捕獲作戦と今年のヤゴたちの様子

前号、前々号でお伝えしたように、トンボの池では、持ち込まれたザリガニが大繁殖し、ヤゴの数が激減してしまいました。昨年の轍を踏まないためにも、今年は早くからザリガニ対策（ザリガニ釣り、ペットボトルのモンドリによる捕獲）を講じました。6月から9月の半ばまで、ほぼ毎週、ペットボトルのモンドリを仕掛けてザリガニを捕獲し続けた鈴子さん一家の地道な努力の結果を紹介してみます。

日	数	日	数
6月10日	8	8月12日	休
6月17日	1	8月19日	2
6月24日	6	8月26日	4
7月01日	3	9月02日	1
7月08日	2	9月09日	0
7月15日	6	9月16日	1
7月21日	2	捕獲数	
7月29日	1	合計	38
8月5日	1	延べ日数	28

仕掛けに使ったものは全て、市販のペットボトル飲料の空き容器を加工したもので、餌は最初の頃はソーセージやニボシも使っていましたが、ほとんどスルメを使ったということです。鈴子さんのお話によると、最初の頃に比べると、夏以降はサイズも大きくなり、色も鮮やかな赤色をしたものがほとんどになったとのこと。また、あまり大きくなったものは、ペットボトルの入口に入りきらず、仕掛けにかからなくなったのではないだろうか、とのこと。

こうして多くの方々の努力が実を結び、今年のトンボの池には、ヤゴたちの姿が戻りつつあります。8月25日の生態園の作業で、水面をおおっているアオミドロの3分の1程を除去した際には、300匹以上のヤゴを確認しました。この数は小さなヤゴも含んでいるので直接の比較はできないものの、去年の池掃除の結果が、泥の底までさらえても100匹程度だったことを考えると、ヤゴの数は回復してきている、と言っているのでは、と考えています。ヤゴの数だけではなく、トンボ達も盛んに飛来して産卵しているようです。先ほどの鈴子さん一家もギンヤンマがたび

たび産卵しているのを観察したほか、ショウジョウトンボや、チョウトンボが産卵しているのも目撃されたようです。いずれにせよ、管理を続けていくことによって、トンボの池からザリガニがいなくなることは難しいにしても、ある程度の数のヤゴが生きていくことはできるのではないのでしょうか。

(渡部 哲也)

## 千石荘の昆虫採集～オオキンカメムシもいるかな？～

日時：平成13年7月15日(日)

講師：竹本卓哉氏(カメムシ研究会)

参加者：38名

天候：曇りのち晴れ

朝からどんよりとした空模様。雨が降るのではないかと心配していましたが、子ども達の笑顔を見るとそんな心配も吹き飛んでしまいました。

最初のポイントは、竹本先生が下見の時に発見してくれたポイントで、土を掘ればカブトムシがわんさか出てくるとか。そんな竹本先生の話聞いた子どもたちは夢中で掘り始めました。しばらくするとそこら中からカブトムシ、子どもたち以上に夢中になっているお父さんやお母さんの姿が印象的でした。

一方で6、7人くらいの子が藪の中をクワガタムシ獲り、蚊に刺されるのもおかまいなしに藪の奥へ奥へと進んでいきました。すると、クヌギやコナラの木の根元にコクワガタを発見。大きなノコギリクワガタやミヤマクワガタは見つかりませんでした。子どもたちは十分満足しているようでした。

竹本先生を先頭に草むらの中を歩きます。シナアブラギリの木がたくさんあり、葉っぱの裏など丹念に探しますがなかなか見つかりません。しかし、目を凝らしてよく見ると、葉っぱと葉っぱの間から黒とオレンジの大きなカメムシがいるではありませんか。オオキンカメムシに出会った子どもたちは、その大きさと美しさに驚いていました。

午後からは、各自で昆虫採集に出かけました。樹液の出ている木を探しに行く子や、トンボやチョウを追いかける子など、お父さんお母さんと一緒に楽しんでいるようでした。最後には、竹本先生からみんなに、大きくて立派なカブトムシをプレゼントしていただきました。

今回の千石荘昆虫採集では様々な虫たちに出会えたわけですが、やはり子どもたちにとってはカブトムシやクワガタムシが主役だったようで、オオキンカメムシはちょっぴり脇役にまわったようでした。

以下に、今回確認した昆虫のリストを示します。皆さんは何種確認できたでしょうか？

### トンボ目

ヤママ科	ネアカヨシヤンマ
アイトトンボ科	ホソミオツネントンボ
サイトンボ科	タイワンウチワヤンマ
トンボ科	オオシオカラトンボ
	コシアキトンボ
	チョウトンボ

### バッタ目

ヒガバッタ科	ヒシバッタ
バッタ科	イボバッタ
	クルマバッタ
	ショウリョウバッタ

オプバツ科	オンブバッタ
カマキリ目	
カマキリ科	チョウセンカマキリ
カメムシ目	
カメムシ科	ヒョウタンカスミカメ
カメムシ科	カモドキサシガメ sp.
カメムシ科	オオメカメムシ
カメムシ科	ヒメホシカメムシ
カメムシ科	ハラビロヘリカメムシ
カメムシ科	マルカメムシ
カメムシ科	オオキンカメムシ
カメムシ科	シラホシカメムシ
	ナガメ
	チャバネアオカメムシ
コウチュウ目	
コウチュウ科	コクワガタ
	スジクワガタ
	ヒラタクワガタ
コウチュウ科	カブトムシ
	カナブン
コウチュウ科	ジョウカイボン
コウチュウ科	キマワリ
コウチュウ科	オトシブミ
チョウ目	
チョウ科	ナミアゲハ
	クロアゲハ
	アオスジアゲハ
チョウ科	モンシロチョウ
チョウ科	ベニシジミ
	ヤマトシジミ
	ウラナミシジミ
チョウ科	ヒメウラナミジャノメ
チョウ科	コミスジ

## 稲谷川にてアカザが見つかる !!

近木川の支流である稲谷川（貝塚市馬場）にて2001年7月20日、淡水魚のアカザが1匹採集されました。採集した三輪健一郎さんは、川の平瀬でタモ網を使い捕らえたそうで、それを信太高校教諭の坂上貴一さんが館に届けて下さいました。

アカザはナマズ目ギギ科に属する1属1種の魚で、全長約10cmの赤褐色の体色をしており、背びれと胸びれの棘に毒をもちます。環境庁のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。



アカザ  
*Liobagrus reini*

この魚の生息環境は、河川の上・中流域の早瀬の石の下などに暮らしていますが、河川改修によって現在は激減し、大阪では姿をみるのが難しい程になっています。近木川水系においても今まで記録がなく、これで淡水魚種が1種追加されたこととなります。

この採集されたアカザは現在、自然遊学館「近木川上流域の魚」水槽で飼育していますので、おどかさないようにそーっと見に来て下さいね。

(山田 量崇)

(山田 浩二)

---

自然遊学館だより 2001 秋号 (No.22)

---

発行日 2001.10.3

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724(31)8457

Fax. 0724(31)8458

---